

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	石井 孝宜			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校選択制について、保護者に正しく認識してもらうように周知を行っていく。ホームページやパンフレットなども再度見直し、より分かりやすいものへと変更していく。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	学校選択制は、市町村によって基準や手続きなどが異なるため、鎌ヶ谷市の制度についてよく理解していただくよう、引き続き周知方法などの検討を行う。
②①に基づく取組み結果	パンフレットの文章を一部、より分かりやすい表現に変更した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の入学予定者	意図(対象をどうするのか)	学びたい、学ばせたい学校に入学できる。
②事務事業の概要	学校運営の状況等を伝えながら保護者や地域住民等の意向を把握・反映し、その協力を得ていく学校評議員制度により、地域や社会に開かれた特色ある学校をめざす。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	これまで選択希望の学校には偏りが見られたが、その年その年で多少選択希望の学校に変化が見られるようになった。1校集中が以前より少なくなった。(抽選なし)			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	小学校37人、中学校43人の児童生徒が学校選択制の申請をし、全員が希望の学校へ入学した。市内の全ての小中学校全に学校評議員をおき、保護者や地域住民等の意見を学校運営の参考にすることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	小中学校入学予定者数	1,931	1,988	1,887	人	業務取得
	ii	学校選択制申請者数	98	81	80	人	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	16,554	17,657	金額(千円)	内容		18,594	
国支出金(千円)			552		学校評議員報償		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	16,554	17,657					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	制度に対する周知徹底をめざしているが、毎年一部の保護者に制度に対する誤解が見られる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	制度が定着してきている一方、指定校変更等や他市の選択制度と混同してしまうなど鎌ヶ谷市の学校選択制を誤解されることもある。今後更に周知徹底が必要。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成25年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	山田 圭子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数教育指導教員研修会を充実させ、指導の工夫改善を図っていく。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	効果的な少人数指導方法については、少人数教育指導教員研修会だけでなく、教務主任研修会等でも取り上げていく。
②①に基づく取組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内全小中学校に少人数指導教員(きらり先生)を市費で派遣し、児童生徒に対してきめ細かな学習指導を行うとともに、子ども達とのふれ合いや、教員同士の交流を深めることを通して学校の活性化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	少人数指導教員(きらり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	きらり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きらり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	21,533	21,444	金額(千円)	内容		26,413	
国支出金(千円)			21,148	少人数指導教員賃金			
県支出金(千円)			294	少人数指導教員校外学習引率時旅費			
市債その他(千円)			2	少人数指導教員校外学習引率時入場料			
一般財源(千円)	21,533	21,444				26,413	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新規人員の確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成26年度への繰越額(単位:千円)				

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	山田 圭子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育が必要と思われる児童生徒数が年々増加していることから、大規模校への複数配置を進める必要がある。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修の充実を図る。心理発達相談員による巡回相談を行い、専門的な支援・指導を行う。
②①に基づく取り組み結果	特別支援教育推進指導教員を鎌ヶ谷小と中部小に2名配置した。教育委員会に心理発達相談員を2名配置した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内の小学校9校・中学校5校に特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を1名(大規模校は2名)ずつ配置し、通常学級に在籍するLD(学習障がい)、ADHD(多動性障がい)、高機能自閉症等の児童に対し、個々のニーズに応じたきめ細かな支援・指導を行い、児童のよりよい成長を促す。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	一人一人の児童生徒のニーズにあわせて、特別支援教育のねらいを明確にし、効果的な学習形態で、きめ細かな指導を行うことができた。このような中で児童生徒は落ち着いて学習に取り組むことができるようになり、学び方や友達との関わりも好転し、学習の成果も上がってきた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	該当児童生徒数	97	133	162	人	業務による取得
	ii	特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	21	26	31	%	業務による取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	21,805	24,165	金額(千円)	内容			32,765
国支出金(千円)			23,796	特別支援教育推進指導教員賃金			
県支出金(千円)			366	特別支援教育推進指導教員校外学習引率時旅費			
市債その他(千円)			3	特別支援教育推進指導教員校外学習引率時入場料			
一般財源(千円)	21,805	24,165					32,765

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導を迅速かつ継続的に行う。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	特別な支援を必要とする児童生徒が増加しており、本事業に対する保護者の期待も大きい。さらに指導・支援の充実を図っていく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	大規模校への複数配置	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷小と中部小に2名配置	30,055	30,055	当初	30,055	24,165	H24からの繰越
				H24⇒25繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	石井孝宜			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	通学路緊急合同点検の結果に基づいて、中長期的な対策箇所を除き、平成25年度中に改善策を講じる。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	学校からの通学路実態調査等を基に整備工事を行う。また、安全運転講習会などの啓発活動も積極的に取り組む。
②①に基づく取り組み結果	通学路緊急合同点検の対策箇所68箇所の内、平成25年度末までで64箇所を改善。その他にも随時工事を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒及び通学路	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	通学路における安全施設の整備、安全指導や防犯活動を実施することにより、登下校時における児童生徒の安全確保を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ドライバーへの注意喚起や歩行者のための安全施設を設置することで、登下校時の通学路における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	路面標示・警戒標識設置工事、カラー舗装工事、防護柵設置工事、滑り止め舗装工事、樹木伐採等を行い、登下校時における児童生徒の安全対策を図った。児童生徒への安全指導の一環として、小学校では自転車安全教室、中学校ではスクエアード・ストレイト自転車交通安全教室を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	7.7	7.1	6.5	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	19,796	30,747	金額(千円)		内容	20,572	
国支出金(千円)		11,400	28,279		通学路整備工事		
県支出金(千円)			1,258		樹木剪定委託		
市債その他(千円)			273		スクエアード・ストレイト自転車交通安全教室業務委託		
一般財源(千円)	19,796	19,347				20,572	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	信号設置や道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	緊急性を要する箇所(緊急合同点検箇所)を含め、順次対策工事を行った。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	通学路整備工事等	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	カラー舗装等の改善工事を行った。	28,600	32,500	当初	20,000	30,747	H24からの繰越	11,400
				H24⇒25繰越	12,500		現年分	19,347
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成26年度への繰越額(単位:千円)						

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	児童生徒安全パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	石井孝宜			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	25年度は巡回時間を4時間から5時間30分に変更。巡回箇所についても引き続き学校等と協議を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	実情に合った安全パトロールをするため、巡回箇所については引き続き学校等と協議していく。
②①に基づく取組み結果	巡回時間を延ばしたことで、巡回箇所の追加や最終下校時刻にも対応した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒のために安全な地域環境の維持を図る。
②事務事業の概要	児童生徒が犯罪に巻き込まれやすい時間帯である下校時から夕方までの間、犯罪から子どもを守り、安全な地域環境を確保することを目的に、パトロールを実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	パトロールによる犯罪の抑止を目的とし、児童生徒の安全を図っていく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	継続的に広範囲のパトロールを実施することにより、児童生徒の安全対策を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	7.7	7.1	6.5	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	9,962	12,054	金額(千円)	内容		17,849	
国支出金(千円)			12,054	児童生徒安全パトロール委託			
県支出金(千円)	9,962	11,503					
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		551				17,849	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下校時間帯の不審者情報も見られ、学校や青少年センターともしっかりと連携してパトロールする必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	児童生徒の登下校時の安全を維持していく上で、継続的に行っていく事業のため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	児童生徒の安全確保のためパトロールの実施。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	巡回箇所の追加、要望に対応した。	16,258	16,258	当初	16,258	12,054	H24からの繰越
				H24⇒25繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由		平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校給食センター管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	中田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	現学校給食センターの施設設備の維持管理を行いつつ、新学校給食センターの平成26年度運営開始に向けて体制を整え、準備を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	今年度より新形態となるため衛生管理は今後も徹底し安全な給食を提供していく。
②①に基づく取組み結果	新学校給食センター開業に向け維持運営の検討会を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	学校給食提供数	意図(対象をどうするのか)	給食実施日数
②事務事業の概要	学校給食施設の安全と衛生を維持し、学校給食の安定供給を図るため、調理場の施設、設備及び備品の維持管理を行う。			
③環境方針(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新学校給食センターの維持管理。また平成21年4月から施行された学校給食衛生管理基準の励行。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)調理場施設、設備及び備品の維持管理を実施し、学校給食の安定供給に努めた。 (2)第一・二学校給食センター施設等の修繕:排水処理装置修理・建物修繕・厨房設備・備品等修理ほか						
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠	
	i	給食実施日数	184	184	184	日	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	62,060	58,921	金額(千円)	内容	13,325		
国支出金(千円)			31,153	光熱水費(電気・水道・都市ガス)			
県支出金(千円)			7,730	燃料費(灯油・LPガス)			
市債その他(千円)			2,290	第一・二学校給食センター施設等修繕			
一般財源(千円)			1,680	排水処理装置維持管理委託			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成26年度からはPFI事業契約による学校給食センター運営において安全な給食の提供を図っていく。(当該事務事業は学校給食運営に要する経費の評価項目に変更)				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	旧学校給食センター施設の有効活用の方針に至るまでの間、必要な施設管理を適切に行う必要がある。平成26年度は、「旧学校給食センター管理に要する経費」として事務事業評価を行う。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H24→25繰越		
③達成状況		補正		H24からの繰越
④未完了・非着手の理由		流用・充当		現年分
		平成26年度への繰越額(単位:千円)		

※変更箇所「黄色セル」の青字部分

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校給食運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	中田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	アレルギーマニュアルの作成につき協議を行う。 新学校給食センターの維持管理・運営につき協議を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	食物アレルギーに対応した給食を実施する。
②①に基づく取組み結果	アレルギーマニュアルは完成に向け引き続き検討している。 新学校給食センター開業に向け維持運営の検討会を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	児童生徒数	意図(対象をどうするのか)	給食実施日数
②事務事業の概要	市内小中学校14校に対し、安全で魅力ある学校給食を安定的に提供し、児童生徒の健康増進を図るとともに、食に対する理解を深める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	学校給食センター建替事業に伴い、運営方式が直営式からPFI式へ変更となった。食物アレルギー対応に関する意見要望があった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)小中学校に対し、年間184日、学校給食を提供した。 (2)給食調理食数(平成25年5月1日現在の児童、生徒、教職員数) 小学校5,688人、中学校2,844人、教職員521人 合計9,053人					
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i 給食実施日数	184	184	184	日	業務取得
	ii					
iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算	
事業費(千円)	560,617	560,960	金額(千円)	内容	848,358	
国支出金(千円)			77,118	非常勤職員賃金(調理・配膳)		
県支出金(千円)			447,062	原材料購入(米・パン・副食・牛乳)		
市債その他(千円)			27,570	給食運搬委託		
一般財源(千円)						

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	献立内容の充実及びアレルギーに対応した給食の提供に取り組むこと。				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	今年度も継続していく事業内容である。				

※変更箇所「黄色セル」の青字部分

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初	0	H24からの繰越
		H24→25繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当		
		平成26年度への繰越額(単位:千円)		